

# 静謐な雰囲気のなかで、 愛と意志を育てる

シュタイナー教育に基づいた、  
独自の教育・保育法を実践する清流みずほ幼稚園。  
静かな環境の中で、子どもたちの意志力が育まれている

写真・相原 功 取材協力・学校法人純純寺学園



幼稚園の降園風景。教会建築のような雰囲気のホールに、子どもたちの声が響く。

110

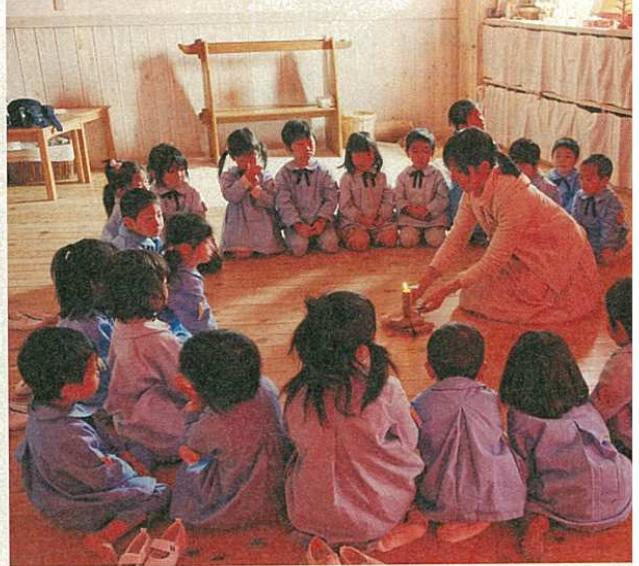


異年齢保育のため、入園したばかりの子どもも年上の子どもを真似て、キンダータイムの雰囲気にすぐに慣れる。



岐阜県瑞穂市ののどかな田園風景の

やさしく包み込む  
リーベリースタイル



「キンダータイム」。先生が蠟燭に火を灯す様子を静かに見つめる子どもから「静」に心を切り替える時間だ。



右／先生が一人ひとりの手にオイルを塗る。大切なスキンシップの時間。  
左／教室に飾られた人形。



清流みずほ幼稚園  
岐阜県瑞穂市森557  
TEL 058-328-7228 FAX 058-328-7272

\*園長／加納大裕 \*教職員／24名 \*園児／138名（年齢1～5歳）

ると、それまで思い思じに遊んでいたたちは、おもちゃを片付け、教室の中へ集まる。先生は子どもたち一人ひとりを見つめながら、手を握り締めるよ。レブエッセンスオイルを塗っていく。「ミヤーオ、ミヤーオ、こねこちゃん」。歌うのは、手遊びの歌。猫のように手を合わせることで、肌を保護するオイルを潤していく。

次に、先生は教室のカーテンを閉じから光が、ピンクのカーテンを透過程室を桃色の陰で満たす。輪の中心に蠟され、皆で「カミさま」へ、お父さんさんへと向けて愛と祈りを捧げる。厳謹な時――。気づけば入園したばかり慣れないで泣いていた子が、涙拭い中に加わっていた。これが、清流みずほ幼稚園の「キンダータイム」の様子だ。

「1日のなかにこうした「静」の時ると、子どもたちは自分の気持ちを試しを落ちさせて、「今日はこれから何うかな」と考えることができる。だんダータイム（＝子どもの時間）なんだ。同園の園長である加納大裕さんが教えてた。



室内遊び。上／先生と輪になって歌う。3園では、ライゲンと呼ばれる季節や自然、生活のことを織り込んだ歌に合わせた動作遊びを行う。下／保育園内のカーテンで仕切られたスペース。



保育園の外遊び。上／先生たちが自力でつくったという砂場で。下／木立の間で遊ぶ。「子どもたちは少しこもった場所が落ち着くんですね」と加納さん。



### 清流みずほ保育園

岐阜県瑞穂市森555

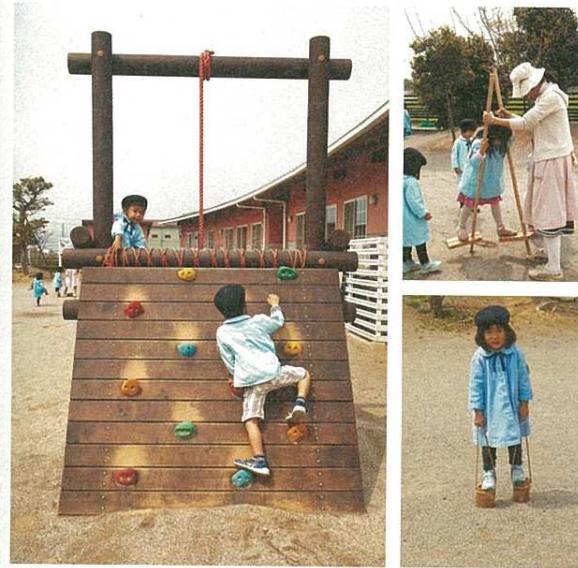
TEL 058-328-7375 FAX 058-328-7376

\*園長／服部幸子 \*教職員／29名 \*園児／64名 (年齢0~2歳)

園のおひるごはんにも子どものための配慮がある。園内で手づくりしている昼食やおやつは、和食中心の自然食で、有機野菜と添加物のない調味料でつくられている。食器もプラスチックやアルマイト製ではなく、陶器や漆塗りの椀を使用。使っているうちに割ってしまうことがあるが、子どもは本物の温かみを感じ、ものを大切に使うことを知っていく。そして、こうした「食育」は園内に設けられた農園でも行われる。食物の種を植え、それらが育ち、口に入るまでの過程を見ていくことで、自然に対する感謝の念が生まれてくる。「いずれ園の食べ物は自給自足したいと思っているんです(笑)。土と触れ合ってることは、そこに棲むミニミズやオケラ、カエルなどたくさん命の命



幼稚園の室内遊び。右上／園にあるままごと用のおもやは無垢材でできている。右下2点／羊毛でできたウサギの人形。園内各所には、「季節のテーブル」として、折々の季節に合わせたしつらえがある。子どもたちが季節のうつろいを視覚的に感じ取れる。中／お手玉で遊ぶ。左／園内にある畳敷きの「シュタイナーハウス」。子どもたちが空想を膨らませるための場所だ。



園庭遊び。右／園庭の遊具も県産の無垢材でできている。中2点／竹馬や缶ばっくりなど昔遊びも。左／遊びのなかで体を育てる。



建つ清流みずほ幼稚園。子どもたちが異年齢、縦割りのクラスで学ぶ。隣の敷地には2006年に開園した清流みずほ保育園、そして2011年4月に開園したばかりのおひさま保育園が並んでいる。

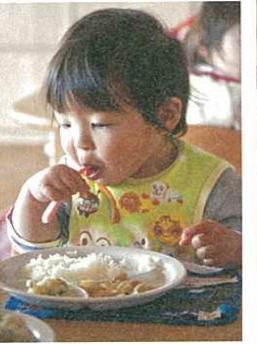
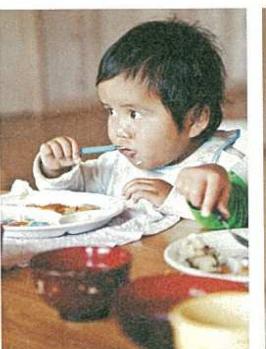
三つの園では、シュタイナー教育理論に基づいた、「リーベリースタイル」という独自の教育・保育法を実践している。シュタイナーライダムを大切にすること、芸術教育を通して子どもの想像力や意志力を育てることが重視される。この教育法を実践するシユタイナー学校は、現在、世界中に900校以上あるそうだ。そのシュタイナー教育を日本の風土や伝統文化に合った形で取り入れているのが同園のリーベリースタイル。その名は、ドイツ語のリーベー(=愛)と、たわわに実るベリーを組み合わせたもので、愛情のなまえた。子どもたちが豊かに成長していくことを願つて名づけられたものである。

その方針通り、園は子どもたちが安心して過ごせる配慮に満ちている。朝、登園した子どもたちは、室内で自由遊びを始める。桜や白樺などの無垢材でできた積み木、羊毛でできた人形。そしてドイツ・シュトックマー社製の蜜蠟粘土、蜜蠟クレヨン、水彩絵の具など、体にやさしい素材でできた遊び道具が用意されている。

その方針通り、園は子どもたちが安心して過ごせる配慮に満ちている。朝、登園した子どもたちは、室内で自由遊びを始める。桜や白樺などの無垢材でできた積み木、羊毛でできた人形。そしてドイツ・シュトックマー社製の蜜蠟粘土、蜜蠟クレヨン、水彩絵の具など、体にやさしい素材でできた遊び道具が用意されている。



おひるごはんは、園内ですべて手づくり。



食事はクラスごとに先生と一緒に。最初はスプーンで食べている子も、先生や箸を使える年上の子どもを真似て使えるようになっていく。



### おひさま保育園の おひるごはん

麦ご飯、八宝菜風煮物（豆腐、キャベツ、もやし、タマネギ、ニンジン、えのき、ショウガ、出汁、醤油）、大根の吸い物（油揚げ、タマネギ、大根、水菜、出汁、醤油、塩）、醤油せんべい（甜菜糖、菜種油、米粉、砂糖、全粒粉）

給食には肉類を使用していない。タンパク質は大豆で摂取する。



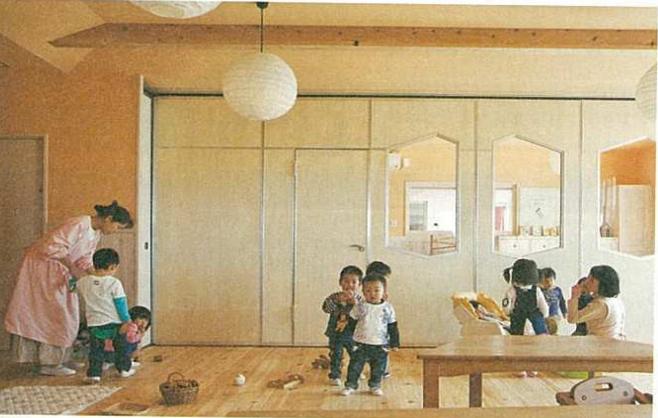
水も園内で浄水、食材は地元の農家と提携した野菜や雑穀米を使用。

「親の状況にかかわらず、どんな子どもも受け入れ、いい環境のなかで過ごさせてあげたいのです。幼保連携には難しい問題もありますが、私たちには長年培ってきたノウハウと、教育・保育の専門知識を持つたスタッフがいます。今が完成形だとは思っていませんが、これからも子どもたちにとつていい教育とは何かを考え、実践して行きたいです」

### どんな子どもも 受け入れていく

ところで、このおひさま保育園は瑞穂市初の認定こども園である。認定こども園とは、幼稚園の教育機能と保育園の長時間保育の機能を一体的に提供する施設で、2006年の根拠法の成立後に全国で認定が進められてきた。親が働いているいないにかかわらず利用でき、地域の子育て家庭への支援を行なうなど、大きな特徴である。こども園の開園に当たっては、清流みずほ幼稚園に始まり、無認可保育園の設立を経て、認可保育園である清流みずほ保育園へ、教育・保育の幅を広げてきた加納さんの強い決意が込められている。

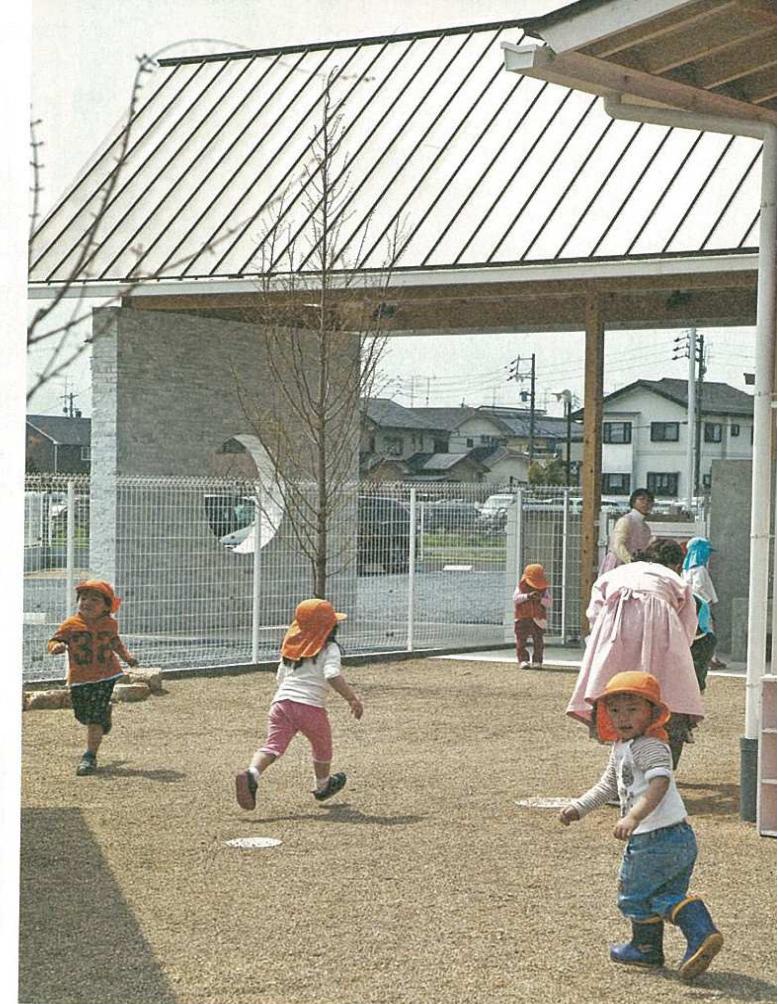
「子どもは模倣する存在ですから、四角四面は自由な成長に適さない。また、こもつたスペースなどにいると、子どもは安心するんです」と加納さん。また、建物には蓄熱コンクリートを利用した熱交換換気システムも導入。暖かく、綺麗な空気環境のなかで子どもたちが健やかに過ごせるように配慮している。「子どもたちが安心して過ごせることがいちばんに考えた建物です」と二人は語る。



右／元気に園庭へ駆け出す。上／おひさま保育園のホール。四角四面ではなく、各所に非対称のモチーフが。下／園内の窓も六角形にしている。



おひさま保育園 岐阜県瑞穂市森565  
TEL 058-328-2078 FAX 058-328-7272  
＊園長／吉野舞里子 ＊教職員／19名  
＊園児／34名（年齢0～5歳）



右から加納大裕園長とアキスタジオゴトーの後藤英紀さん。(株)アキスタジオゴトー 〒501-0425 岐阜県本巣郡北方町加茂39-1 TEL 058-324-9510

### 子どもが安心できる 園舎をつくる

子どもたちが安心して過ごせる環境づくりは、建物のつくりよりも求められている。3園はそれぞれ岐阜県産の杉と檜で建てた。壁には珪藻土や炭入りの漆喰を使用。清流みずほ幼稚園は母の胎内、清流みずほ保育園は胎児の形をモチーフに、という加納さんのアイデアが採用され、それを県産材の有効利用に取り組む地元の建築家・後藤英紀さんが形にした。加納さんと後藤さんは、おひさま保育園を建てるにあたり、2008年にドイツに行つてシユタignerの建物を見学しました。「建物が人間の心にどう影響を与えるかを考えて建てられていることに感動しました。建物に直角の部分がないこと、成長していく木をイメージしたダイテールなど、その特徴を意識してデザインしました」と後藤さん。普通、教室といえば四角四面のものが一般的だが、おひさま保育園では建物内部の角ができるだけ排している。また、子どもたちが隠れたりこもったりするための窪んだスペースなども多い。

「子どもは模倣する存在ですから、四角四面は自由な成長に適さない。また、こもつたスペースなどにいると、子どもは安心するんです」と加納さん。また、建物には蓄熱コンクリートを利用した熱交換換気システムも導入。暖かく、綺麗な空気環境のなかで子どもたちが健やかに過ごせるように配慮している。「子どもたちが安心して過ごせることがいちばんに考えた建物です」と二人は語る。

と触れ合うこと。そんな環境のなかで人が食べるものが育つ。そういう話をしながら、環境のことや共生ということについて学んでいきます」と加納さんは語る。